



## 運動・スポーツの好嫌度とイメージ

明治大学 商学部 准教授 澤井 和彦

2017年3月策定の第2期スポーツ基本計画は「学校体育をはじめ子供のスポーツ機会の充実による運動習慣の確立と体力の向上」を施策目標に、スポーツが「嫌い」・「やや嫌い」である中学生の半減（平成28年度現在16.4%→8%）を目指す（スポーツ庁、2017）。この目標設定から2年を経たスポーツ庁「平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」によれば、運動・スポーツが「嫌い」「やや嫌い」という中学生2年生は、16.2%（男子11.4%、女子21.3%）とほぼ横ばいであり、達成には程遠い。

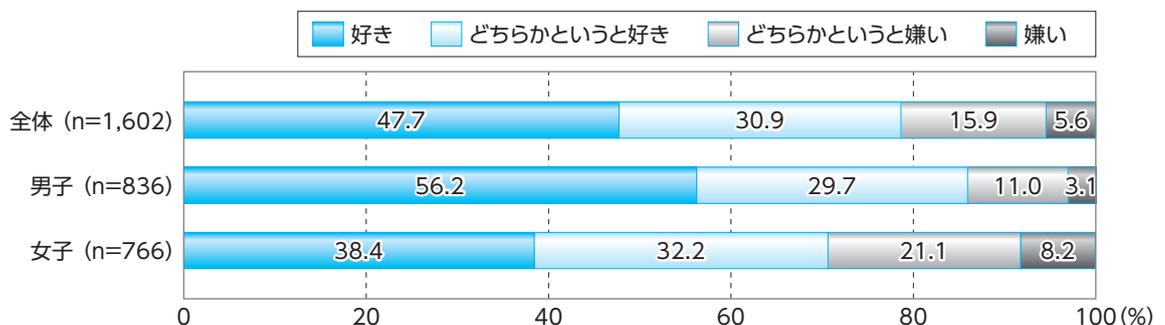
運動・スポーツや体育の授業に対する好嫌度に関する研究は1980年代からみられるが、2014年頃から増加しており、比較的新しい研究テーマとして注目される。本調査では、調査を開始した2001年より「あなたは運動やスポーツ、運動あそびをするのは好きですか」といった運動・スポーツの好嫌度を継続的にたずねている。また、今回の2019年調査では、青少年の運動・スポーツに対する意識をより詳細に把握するため、運動・スポーツと学校の体育授業についてどのように感じているかもたずねた。

本稿では中学校・高校・大学・短大・高専・専門学校・勤労者（フルタイム）の1,602名（男子836名、女子766名）を対象とし、運動・スポーツへの好嫌度やイメージと、運動・スポーツ実施状況との関係およびその背景について分析した。

### C-1 運動・スポーツの好嫌度

図C-1に運動・スポーツの好き嫌いの割合を性別に示した。全体をみると「好き」47.7%、「どちらかという好き」30.9%、「どちらかという嫌い」15.9%、「嫌い」

5.6%であった。性別にみると「好き」は男子が56.2%、女子が38.4%であり、男子が女子を17.8ポイント上回っている。



【図C-1】 運動・スポーツの好き嫌い(性別)

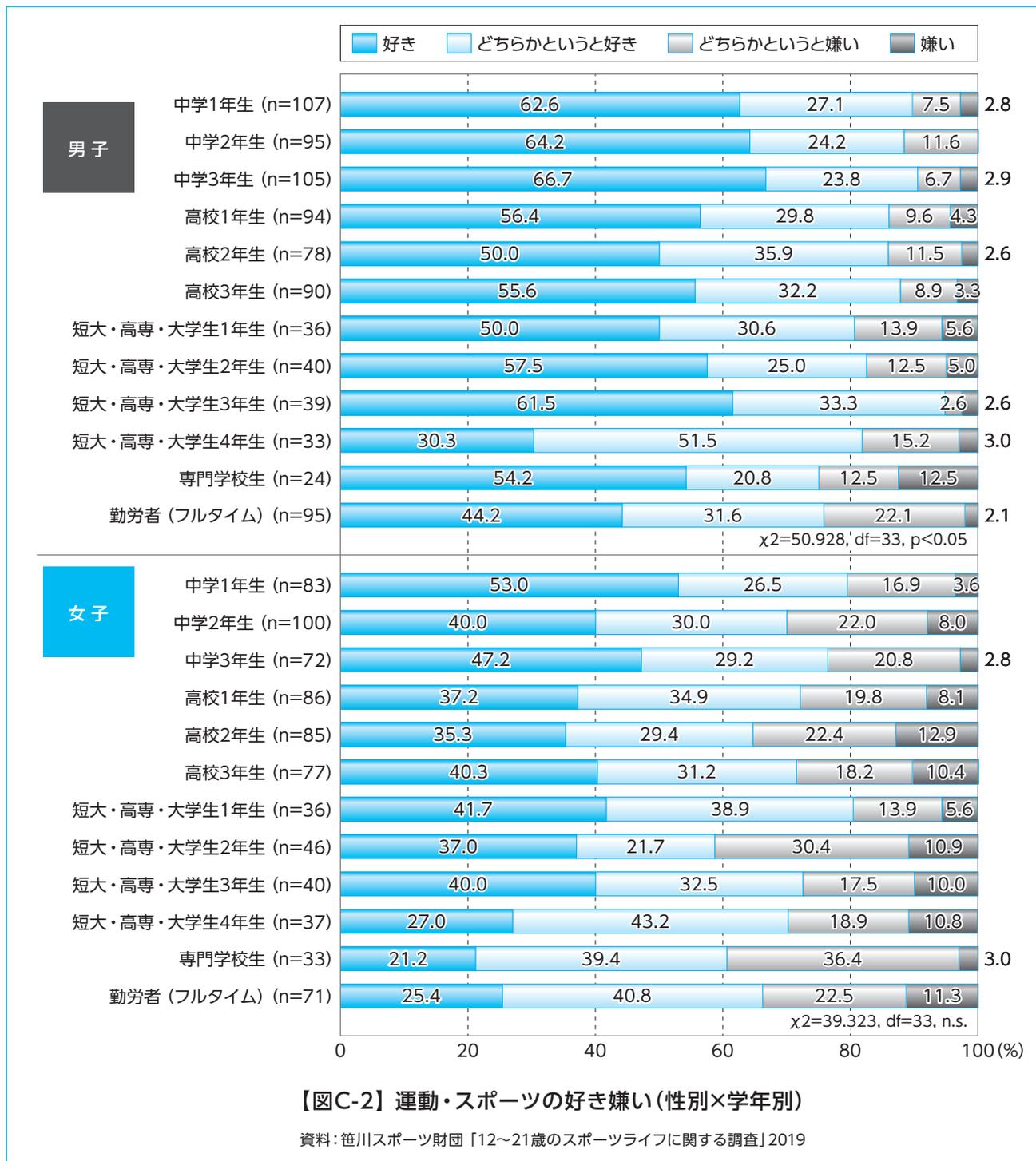
注) 分析対象とした学校期は中学校・高校・大学・短大・高専・専門学校・勤労者(フルタイム)とした

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

図C-2には、運動・スポーツの好き嫌いの割合を性別・学年別に示した。平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」といった質問に対する中学2年生の調査結果をみると、男子は「好き」63.1%、「やや好き」25.5%、「やや嫌い」7.4%、「嫌い」4.0%、女子は「好き」47.4%、「やや好き」31.4%、「やや嫌い」14.3%、「嫌い」7.0%であった（スポーツ庁、2018）。この結果と本調査の中学2年生の結果を比較

すると、男子ではほぼ同様の結果が得られているが、女子ではスポーツ庁の調査より「好き」「どちらかというとき」が少なく、「嫌い」「どちらかというとき嫌い」が多い。先行研究をみても調査によって好嫌度にはかなりばらつきがみられ、質問や選択肢の文言などの表現の違いが影響しているのかもしれない。また、学校や家庭など回答する場所や状況によって「運動・スポーツ」のイメージに相違が生じた可能性も考えられる。

性別・学年別に運動・スポーツの好嫌度をみると、い



ずれの学年も女子は男子より「好き」「どちらかという好き」が少なく、男女とも学年が進むと「好き」の割合が減少し、「嫌い」「どちらかという嫌い」の割合が増加する。しかし、学年間では男子は有意差がみられるが、女子には確認できなかった。

学年別に分類するとサンプル数が少なくなるため、「嫌い」「どちらかという嫌い」の回答を合計した「運動・スポーツ嫌い」の割合を性別・学年別に算出してカイ2乗検

定を行った(表C-1)。学年別にみると、図C-2の結果と同様に女子では学年間の有意差は確認できなかった。性別にみると、中学1年～高校3年および短大・高専・大学2、3年生で女子の方が男子より運動・スポーツ嫌いの割合が有意に高かったが、短大・高専・大学生1年生と4年生、専門学校生、勤労者(フルタイム)では男女間で有意な差はみられなかった。

表C-2に運動・スポーツの好き嫌いを性別・学校期別

【表C-1】性別・学年別にみた運動・スポーツ嫌いの割合

	全体 (%)	男子 (%)	女子 (%)	【性別比較】 Pearsonのカイ2乗 漸近有意確率 (両側)
中学1年生	14.7	10.3	20.5	0.049
中学2年生	21.0	11.6	30.0	0.002
中学3年生	15.3	9.5	23.6	0.010
高校1年生	20.6	13.8	27.9	0.020
高校2年生	25.2	14.1	35.3	0.002
高校3年生	19.8	12.2	28.6	0.008
短大・高専・大学1年生	19.4	19.4	19.4	1.000
短大・高専・大学2年生	30.2	17.5	41.3	0.017
短大・高専・大学3年生	16.5	5.1	27.5	0.007
短大・高専・大学4年生	24.3	18.2	29.7	0.261
専門学校生	33.3	25.0	39.4	0.255
勤労者(フルタイム)	28.3	24.2	33.8	0.175
合計	21.4	14.1	29.4	0.000
【学年比較】 Pearsonのカイ2乗漸近有意確率 (両側)	0.007	0.071	0.288	

注) 運動・スポーツ嫌い:「嫌い」「どちらかという嫌い」の回答を合わせた割合

資料: 笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019

【表C-2】運動・スポーツの好き嫌い(性別×学校期別)

男子					女子					【性別比較】 カイ2乗検定 漸近有意確率 (両側)
	好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い		好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い	
中学校期 (n=307)	64.5	25.1	8.5	2.0	中学校期 (n=255)	46.3	28.6	20.0	5.1	0.000
高校期 (n=262)	54.2	32.4	9.9	3.4	高校期 (n=248)	37.5	31.9	20.2	10.5	0.000
大学期(短大・高専含む) (n=148)	50.7	34.5	10.8	4.1	大学期(短大・高専含む) (n=159)	36.5	33.3	20.8	9.4	0.009
専門学校 (n=24)	54.2	20.8	12.5	12.5	専門学校 (n=33)	21.2	39.4	36.4	3.0	0.014
勤労者(フルタイム) (n=95)	44.2	31.6	22.1	2.1	勤労者(フルタイム) (n=71)	25.4	40.8	22.5	11.3	0.014
【学校期間比較】 Pearsonのカイ2乗 漸近有意確率 (両側)	0.001				【学校期間比較】 Pearsonのカイ2乗 漸近有意確率 (両側)	0.021				

資料: 笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019

に示した。学校期ごとに運動・スポーツの好嫌度を集計してみると、すべての学校期で有意な性差がみられると同時に、男女とも学校期間に有意な差が認められた。

「運動嫌い」は学年進行に伴う増加はみられず、中学校から高校という学校期の間で大きく増加する(吉川ほか、2012)(ただし、小学校と中学校の差異は小学生のばらつきが大きいため明確ではない)。このような学校期ごとの運動スポーツ嫌いの割合の変化は、体育授業の影響が指摘されている。岡沢ほか(1996)は、中学校と

高校の体育授業について、中学校ではどちらかといえば社会性の育成をねらいとした学習が多いが、高校ではスポーツ種目の専門性を重視した学習が多いという方針の違いが子どもの運動・スポーツに対するイメージに影響を与えていると指摘している。

中学・高校・大学という学校期ごとの体育授業における授業の方針や内容の違いが、青少年の運動・スポーツの好嫌度に影響を与えていると考えられる。

## C-2 運動・スポーツの好嫌度と運動・スポーツ実施状況との関連

表C-3に運動・スポーツ実施頻度群別にみた「運動・スポーツ嫌い」(「嫌い」「どちらかという嫌い」の合計)の割合を性別・学校期別に示した。女子の専門学校生を除いて、いずれの学校期も運動・スポーツが嫌いという意識と実施頻度間に有意な相関が認められた。

中学校期・高校期・大学期(短大・高専含む)における運動・スポーツ実施頻度群別にみた運動・スポーツ嫌いの割合に着目すると、女子ではいずれの学校期でも低頻度群・中頻度群・高頻度群の運動・スポーツが嫌いで

ある割合が男子に比べて高く、特に大学期(短大・高専含む)の高頻度群では中頻度群と運動・スポーツ嫌いの割合は同程度であるなど、一定の「不本意実施群」の存在が示唆される。一方、男子では非実施群の運動・スポーツ嫌いの割合が実施群に対して高く、中学校期の非実施群における運動・スポーツ嫌いは高校期・大学期(短大・高専含む)と比べて突出している。すなわち、男子では「運動・スポーツ嫌いの非実施」が、女子では「運動・スポーツ嫌いの不本意実施」が特徴といえる。

【表C-3】 運動・スポーツ実施頻度群別にみた運動・スポーツ嫌い(性別×学校期別)

男子	全体		中学校期		高校期		大学期 (短大・高専含む)		専門学校		勤労者 (フルタイム)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
非実施群	114	52.6	15	80.0	37	51.4	25	44.0	5	80.0	32	43.8
低頻度群	204	15.7	33	18.2	40	20.0	73	11.0	11	18.2	47	17.0
中頻度群	265	7.2	118	6.8	104	6.7	30	10.0	3	0.0	10	10.0
高頻度群	253	2.8	141	4.3	81	1.2	20	0.0	5	0.0	6	0.0
Pearsonのカイ2乗 漸近有意確率(両側)	0.000		0.000		0.000		0.000		0.012		0.012	

女子	全体		中学校期		高校期		大学期 (短大・高専含む)		専門学校		勤労者 (フルタイム)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
非実施群	204	52.0	28	57.1	68	57.4	60	45.0	13	46.2	35	51.4
低頻度群	208	32.7	51	43.1	65	32.3	56	26.8	16	31.3	20	25.0
中頻度群	220	18.2	107	19.6	67	19.4	31	12.9	3	33.3	12	8.3
高頻度群	134	8.2	69	7.2	48	6.3	12	16.7	1	100.0	4	0.0
Pearsonのカイ2乗 漸近有意確率(両側)	0.000		0.000		0.000		0.007		0.517		0.011	

注) 運動・スポーツ嫌い:「嫌い」「どちらかという嫌い」の回答を合わせた割合

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

## C-3 運動・スポーツのイメージ

本調査では、運動・スポーツ好嫌度の具体的な内容として、運動・スポーツのイメージについてたずね、19の選択肢の中からより強く感じているイメージを3つまで選択する方式で回答を得た。

表C-4および表C-5に運動・スポーツ好嫌度別にみた運動・スポーツに対するイメージを性別・学校期別に示した。運動・スポーツ好嫌度については好き・どちらかという好きを「運動・スポーツ好き群」、嫌い・どちら

【表C-4】運動・スポーツ好き群の運動・スポーツに対するイメージ(性別×学校期別)

(人)

運動・スポーツ好き群										
男子										
順位	全体		中学校期		高校期		大学期(短大・高専含む)		勤労者(フルタイム)	
1	からだを動かすので気持ちがいい	461	からだを動かすので気持ちがいい	178	からだを動かすので気持ちがいい	138	楽しい	86	からだを動かすので気持ちがいい	49
2	楽しい	427	楽しい	166	楽しい	125	からだを動かすので気持ちがいい	85	楽しい	35
3	一緒にできる友だちがいる	206	一緒にできる友だちがいる	75	一緒にできる友だちがいる	62	一緒にできる友だちがいる	41	一緒にできる友だちがいる	22
4	勝ち負けが決まるのがおもしろい	182	勝ち負けが決まるのがおもしろい	70	上手にできる・得意	58	勝ち負けが決まるのがおもしろい	33	勝ち負けが決まるのがおもしろい	18
5	上手にできる・得意	172	上手にできる・得意	61	勝ち負けが決まるのがおもしろい	55	上手にできる・得意	32	上手にできる・得意	16
6	あきらめずに練習すればできる	108	あきらめずに練習すればできる	50	疲れる	38	あきらめずに練習すればできる	16	あきらめずに練習すればできる	11
7	疲れる	104	疲れる	46	あきらめずに練習すればできる	31	疲れる	13	疲れる	7
8	友だちが応援してくれる	40	先生やコーチにほめられる	22	汗をかくのが気持ち悪い	15	汗をかくのが気持ち悪い	6	友だちが応援してくれる	4
9	うまくできない・苦手	35	友だちが応援してくれる	17	うまくできない・苦手	14	うまくできない・苦手	5	やる気が出ない	3
	先生やコーチにほめられる	35	うまくできない・苦手	15	友だちが応援してくれる	14	やる気が出ない	5	先生やコーチにほめられる	3
女子										
順位	全体		中学校期		高校期		大学期(短大・高専含む)		勤労者(フルタイム)	
1	楽しい	351	楽しい	129	からだを動かすので気持ちがいい	106	楽しい	81	からだを動かすので気持ちがいい	32
2	からだを動かすので気持ちがいい	316	からだを動かすので気持ちがいい	94	楽しい	100	からだを動かすので気持ちがいい	73	楽しい	32
3	一緒にできる友だちがいる	149	一緒にできる友だちがいる	66	一緒にできる友だちがいる	41	一緒にできる友だちがいる	22	一緒にできる友だちがいる	12
4	疲れる	100	疲れる	36	あきらめずに練習すればできる	39	疲れる	21	疲れる	9
5	あきらめずに練習すればできる	96	勝ち負けが決まるのがおもしろい	35	疲れる	33	勝ち負けが決まるのがおもしろい	18	やる気が出ない	6
6	勝ち負けが決まるのがおもしろい	92	あきらめずに練習すればできる	32	勝ち負けが決まるのがおもしろい	31	上手にできる・得意	17	あきらめずに練習すればできる	6
7	上手にできる・得意	74	上手にできる・得意	24	上手にできる・得意	24	あきらめずに練習すればできる	16	上手にできる・得意	5
8	うまくできない・苦手	58	友だちが応援してくれる	24	うまくできない・苦手	22	うまくできない・苦手	13	うまくできない・苦手	4
9	友だちが応援してくれる	44	うまくできない・苦手	16	友だちが応援してくれる	13	やる気が出ない	6	先生やコーチにほめられる	4
10	やる気が出ない	30	失敗することが多い	13	汗をかくのが気持ち悪い	10	汗をかくのが気持ち悪い	6	友だちの様子が気になる	3
									失敗することが多い	3

注) 運動・スポーツ好き群:「好き」「どちらかという好き」の回答を合わせて集計

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

【表C-5】 運動・スポーツ嫌い群の運動・スポーツに対するイメージ(性別×学校期別)

(人)

運動・スポーツ嫌い群										
男 子										
順位	全体		中学校期		高校期		大学期(短大・高専含む)		勤労者(フルタイム)	
1	疲れる	62	疲れる	17	疲れる	17	疲れる	11	疲れる	13
2	うまくできない・苦手	40	うまくできない・苦手	12	うまくできない・苦手	14	うまくできない・苦手	9	からだを動かすので気持ちがいい	9
3	やる気が出ない	33	楽しい	9	楽しい	9	からだを動かすので気持ちがいい	7	やる気が出ない	8
4	からだを動かすので気持ちがいい	29	汗をかくのが気持ち悪い	8	やる気が出ない	8	やる気が出ない	6	楽しい	7
	楽しい	29	やる気が出ない	7	一緒にできる友だちがいる	7	楽しい	4	汗をかくのが気持ち悪い	5
6	汗をかくのが気持ち悪い	23	からだを動かすので気持ちがいい	6	汗をかくのが気持ち悪い	7	一緒にできる友だちがいる	4	うまくできない・苦手	3
7	一緒にできる友だちがいる	15	失敗することが多い	5	からだを動かすので気持ちがいい	5	失敗することが多い	3	一緒にできる友だちがいる	3
8	失敗することが多い	13	できないと恥ずかしい	4	タイムを計るのが嫌だ	5	上手にできる・得意	2	勝ち負けが決まるのがおもしろい	2
9	勝ち負けが決まるのがおもしろい	8	勝ち負けが決まるのがおもしろい	3	失敗することが多い	3	汗をかくのが気持ち悪い	2	失敗することが多い	1
	タイムを計るのが嫌だ	8	友だちが応援してくれる	3	上手にできる・得意	2	勝ち負けが決まるのがおもしろい	1	あきらめずに練習すればできる	1
					勝ち負けが決まるのがおもしろい	2	注意されることが多い	1	友だちの様子が気になる	1
					友だちが応援してくれる	2	友だちが応援してくれる	1	先生やコーチにほめられる	1
					友だちの様子が気になる	2	上手な人と一緒に運動をしなければならぬ	1		

女 子										
順位	全体		中学校期		高校期		大学期(短大・高専含む)		勤労者(フルタイム)	
1	疲れる	118	疲れる	36	うまくできない・苦手	42	うまくできない・苦手	29	疲れる	11
2	うまくできない・苦手	117	うまくできない・苦手	33	疲れる	41	疲れる	24	楽しい	9
3	やる気が出ない	63	やる気が出ない	20	やる気が出ない	28	からだを動かすので気持ちがいい	14	からだを動かすので気持ちがいい	8
4	楽しい	49	楽しい	9	からだを動かすので気持ちがいい	15	楽しい	13	うまくできない・苦手	8
	からだを動かすので気持ちがいい	49	できないと恥ずかしい	9	楽しい	11	やる気が出ない	11	一緒にできる友だちがいる	4
6	できないと恥ずかしい	27	あきらめずに練習すればできる	8	汗をかくのが気持ち悪い	11	できないと恥ずかしい	10	やる気が出ない	2
7	汗をかくのが気持ち悪い	26	汗をかくのが気持ち悪い	8	失敗することが多い	10	タイムを計るのが嫌だ	5	失敗することが多い	2
8	一緒にできる友だちがいる	21	からだを動かすので気持ちがいい	7	あきらめずに練習すればできる	7	一緒にできる友だちがいる	4	できないと恥ずかしい	2
	失敗することが多い	21	一緒にできる友だちがいる	7	勝ち負けが決まるのがおもしろい	7	勝ち負けが決まるのがおもしろい	4	勝ち負けが決まるのがおもしろい	2
10	勝ち負けが決まるのがおもしろい	19	失敗することが多い	5	できないと恥ずかしい	6	汗をかくのが気持ち悪い	4	あきらめずに練習すればできる	1
			タイムを計るのが嫌だ	5			注意されることが多い	4	汗をかくのが気持ち悪い	1
									注意されることが多い	1
									友だちが応援してくれる	1

注) 運動・スポーツ嫌い群:「嫌い」「どちらかというと嫌い」の回答を合わせて集計

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

かという嫌いを「運動・スポーツ嫌い群」とした。

表C-4に示した「運動・スポーツ好き群」では学校期による差はあまりみられない。性別にみると「運動・スポーツ好き群」であっても「疲れる」というネガティブなイメージが、男子では全ての学校期で6~7位であるのに対し、女子では4位、5位にランキングされている。ポジティブなイメージである「上手にできる・得意」は、男子では4~5位にランキングされるのに対し、女子では6位、7位であり、女子では「運動・スポーツ好き群」であっても運

動・スポーツへの苦手意識がうかがえる。

一方、表C-5に示した「運動・スポーツ嫌い群」では「できないと恥ずかしい」が女子でランキングに入っているほかは、学校期、性別ともに注目すべき特徴はみられない。

運動・スポーツのイメージは「好き群」において上位に挙がる回答に男女差が顕著にみられ、ここでもやはり女子の「不本意実施群」の存在が気になるところである。

## C-4 まとめ

本稿では、青少年の運動・スポーツの好嫌度とイメージとの関連やその背景について分析した。主に性別と学年、学校期、運動・スポーツ実施頻度を独立変数として分析したが、保護者の運動・スポーツ経験や世帯年収、あるいは本人の運動・スポーツ実施状況として頻度だけでなく、実施種目や運動強度などより具体的な内容を変

数とした分析も考えられるだろう。特に、女子の「運動・スポーツ不本意実施」についてはその背景や、その後の女性の運動・スポーツ実施への影響など、詳細にみていく必要がある。運動・スポーツの好嫌度やイメージについては政策的にも注目され始めたところであり、これからますます研究の蓄積が期待される。

### <参考文献>

岡沢祥訓・北真佐美・諏訪祐一郎 (1996) 運動有能感の構造とその発達及び性差に関する研究, スポーツ教育学研究, 16(2): pp145-155

スポーツ庁 (2017) スポーツ基本計画

スポーツ庁 (2018) 平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書, pp86-89

吉川麻衣・山谷幸司・笹生心太 (2012) 「運動嫌い」「体育嫌い」の実態と発生要因に関する研究: 小学生・中学生・高校生における「運動嫌い」と「体育嫌い」の関連性に着目して, 仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集, 13: pp107-116

## COMMENTS

- 私自身があまり運動が得意ではないので、子どもが運動を楽しんでいるように声をかけるよう心がけています。また主人は同じスポーツを自分自身もすることで、子どもと同じ目線で会話ができ、子どもも楽しいようです。(10歳男子の母親)
- スポーツが苦手でも、楽しくできる環境があると思います。(10歳男子の母親)
- 幼少期に身体を動かすことは大切だと思うが、スポーツだけでなくさまざまなことに興味を持ってほしいです。(21歳男子の母親)

資料: 笹川スポーツ財団「4~11歳のスポーツライフに関する調査」2019、「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019